

事業コード	H17-建-再-1		区 分	国庫補助 県単独
事業名	都市計画街路事業		部局課室名	建設交通部 都市計画課
事業種別	一種改築(現道拡幅)		班 名	街路班 (tel) 018-860-2444
路線名等	都市計画道路 千秋広面線		担当課長名	高松 正彦
箇所名	秋田市手形		担当者名	主幹兼班長 有明 滋夫
総合計画との関連	政策コード	C	政策名	快適で安全な生活を支える環境づくり
	施策コード	01	施策名	四季を通じて快適な生活環境の確保
	指標コード	03	施策目標(指標)名	都市計画道路整備率

1. 事業の概要

事業期間	H08 ~ H22 (15年)		総事業費	40.0億円	国庫補助率	5.5/10
事業規模	延長L=540m 幅員(構成)W=25.0m(4.5-0.5-3.25*2-2.0-3.25*2-0.5-4.5)					
事業の立案に至る背景	本路線は、JR奥羽本線により分断された中心市街地を東西に連絡する主要幹線道路であるが、中心市街地へ流入する交通により慢性的な渋滞が発生している。そのため、本路線を整備し、中心市街地の混雑緩和を図る。					
事業目的	立体交差・都心環状道路の整備 中心市街地の活性化(駅東西のアクセス性改善) 交通混雑の緩和(主要渋滞ポイントの解消) 市町村合併支援 第3次救急医療施設へのアクセス性改善					
事業費内訳 事業内容 (単位:千円)			計 画 時	評 価 時	増 減	理 由 等
	事業費		5,038,000	4,000,000	-1,038,000	
	経費内訳	工事費	3,353,513	2,235,000	-1,118,513	既存の上部工を極力利用
		用補費	1,338,638	1,368,000	29,362	建物調査等の結果による
		その他	345,849	397,000	51,151	
	財源内訳	国庫補助	2,571,000	2,146,000	-425,000	
		県債	2,056,000	1,531,000	-525,000	
その他		302,280	240,000	-62,280		
一般財源		108,720	83,000	-25,720		
事業内容		調査設計 用地補償 橋梁上下部工	調査設計 用地補償 橋梁上下部工			
事業の進捗状況	用地買収が難航し計画より遅れているが、残物件は1件であり、解決次第速やかな進捗が図れる。橋梁下部工10基が既に完成しており、残工事は下部工5基と上部工一式である。					
事業推進上の課題	難航している物件について収用委員会に諮ることとしている。					
関連する計画等	秋田21総合計画の施策「快適で安全な生活を支える環境づくり」に位置づけられている。秋田都市計画区域マスタープランにおいて概ね10年以内に整備する施設に位置づけられている。秋田中央道路整備事業・秋田駅東第三地区土地区画整理事業・秋田駅西北地区土地区画整理事業					
情勢の変化及び長期継続の理由	現在同市では、秋田駅東地区の急速な発展や秋田自動車道秋田中央ICの供用などにより、JR秋田駅東西間における交通渋滞が著しく、将来においても深刻な交通混雑が予想されている。市町村合併支援道路に位置づけられている。					
事業効率把握の手法及び効果	指標名	都市計画道路整備率				
	指標式	= 整備済延長 / 都市計画決定延長				
	指標の種類	成果指標	業績指標	低減指標の有無	有 無	
	目標値 a	60 %		データ等の出典	都市計画年報	
	実績値 b	48 %				
達成率 b/a	80.0 %		把握の時期	平成17年9月		

前回評価結果等	選定または継続 改善 見直し 保留または中止
	指摘事項
	県の評価および対応方針を可とする。
	指摘事項への対応
	難航している用地取得問題の早期解決を図り、着実に事業を推進する。

2. 所管課の自己評価

観 点	評 価 の 内 容 (特 記 事 項)	評 価 点
必 要 性	都心環状道路の一部であるほか、第二次緊急輸送道路の指定路線でもあり、防災計画上の重要路線である。 競合路線として秋田中央道路、川尻広面線（明田地下道）が考えられる。しかし、鉄道断面の幹線道路は当該3路線のみであることから、千秋広面線の未整備により他2路線へ大きな負荷がかかることが予想され、未整備による影響は大きいと考える。	28点
緊 急 性	「あきた21総合計画」における快適で安全な生活を支える環境づくりに資する事業であるほか、「秋田都市計画区域マスタープラン」の中でも概ね10年以内に整備すべき路線として位置づけられている。 市町村合併支援道路の指定を受けている。 接続する明田外旭川線（区画整理事業で整備中）や秋田中央道路とあわせて整備することでより大きな効果を発揮する。	9点
有 効 性	第3次救急医療施設へのアクセス道路としての活用が見込まれ、防災計画上の重要路線である。 特に渋滞の著しい手形陸橋から秋田駅・千秋トンネル方面の混雑を緩和するためにも本路線の整備は有効である。 中心市街地への主要なアクセス道路であり、通勤・通学の利用者も多いことから、物流やまちづくりへの貢献度が高い。	14点
効 率 性	事業の費用便益比は2.35であり効率性は高い。 ・総費用の現在価値 42億円 ・総便益の現在価値 99億円 極力既存の橋梁部材を活用すること等で計画時と比較して20%コストの縮減を実現している。 秋田市の東西を連絡する交通の要所であり、交通量も多いことから効率性は高い。	20点
熟 度	橋梁下部工10基が既に完成しており、事業の進捗が望まれている。 用地補償交渉が難航し、事業の進捗率が50%にとどまっているが、残物件は裁決申請予定の1件のみであり、解決次第残りの下部工事に着手可能である。	9点
判 定	ランク () 渋滞の緩和に資するほか、救急医療施設へのアクセス道路・市町村合併支援道路・第二次緊急輸送道路にも位置づけられており、必要性・有効性が高いことから引き続き実施すべき事業である。	80点
総 合 評 価	継続 改善して継続 見直し 中止 事業継続は妥当である。	

3. 評価結果の当該事業への反映状況等（対応方針）

難航している用地取得問題の早期解決を図り、着実に事業を推進する。

4. 公共事業評価専門委員会意見

県の総合評価を可とする。

評価種別 継続箇所評価
適用基準名 街路事業

事業コード (H17-建-再-1)
箇所名 (秋田市手形)

1. 評価内訳

観点	評価項目 細別	評価基準	配点	評価点	摘要				
必要性	交通状況の変化 (バイパス・新設路線に 現況道路の交通量変動 (自動車・歩行者)	増加している	15	12					
		現状維持	12						
		10%未満の減少	10						
		10%以上20%未満の減少	8						
		20%以上の減少	5						
	今後の進捗の見込み 事業執行上の課題の有無	課題もなく順調な進捗が見込まれる	10	8					
		課題はあるが事業の進捗に大きな影響はない	8						
		将来的な課題はあるが当面の進捗に影響はない	5						
		課題解決の見込みがなく、停滞している	0						
	事業中止又は休止による影響 事業を中止・休止した場合の成果に対す	代替手段がなく、影響が大きい	10	8					
代替手段はあるが、影響が大きい		8							
代替手段があり、影響が小さい		3							
計			35	28					
緊急性	関連事業の有無	各種プロジェクト支援 (県の主要プロジェクト・地域振興プロ	有り なし	1 0	1				
		大規模イベント支援 国体・インターハイ・万博など	有り なし	1 0					
		新規整備の公共公益施設アクセス 市町村役場・病院・学校・公民館など	有り なし	1 0					
		他公共事業関連 (街路事業以外の事業支援)	有り なし	1 0					
		住宅地開発 (300戸以上又は16ha以上)の連絡	有り なし	1 0					
		事業を取り巻く周辺状況(需要)の変化 現況に対する将来交通量	増加する(5%以上) 変化なし(±5%未満) 5%以上10%未満の減少 10%以上20%未満の減少 20%以上の減少	10 8 7 5 3		7			
		計					15	9	
		有効性	物流の高度化と交流の円滑化への貢献度	高速ICアクセス			該当項目 2 以上	5	5
				港湾・空港アクセス			該当項目 1	3	
				新幹線駅又は特急停車駅等()へのア 特急停車駅又は平均乗降客2000人/日 主要な観光地へのアクセス 駅前広場の造成 広域道路整備計画			該当項目 0	0	
市街地の活性化とまちづくりへの貢献度					5				
DID区域内の事業	該当項目 2 以上			5					
市街地再開発・区画整理等との連携	該当項目 1			4					
電線類地中化計画	該当項目 0			2					
景観や中心市街地の特色あるまちづくり バリアフリー 周辺景観との調和 道路緑化の推進 3次医療施設・2次医療施設へのアクセ									
県施策目標への貢献度					4				
都市計画道路整備率の向上	平成19年度末までに供用予定 平成22年度末までに供用予定 平成23年度末以降供用予定			5 4 3					
計			15	14					
効率性	当初計画と比べた事業費の増減 都市計画事業認可時の全体事業費との増	減少している	10	10	全体事業費の増減率 都市計画法第59条又は第				
		10%未満の増加	8						
		10%以上30%未満の増加	7						
		30%以上50%未満の増加	3						
		50%以上の増加	0						
	費用便益比	費用便益比	2.0以上 1.5以上2.0未満 1.0以上1.5未満 1.0未満	5 4 3 0		5			
		コスト縮減・リサイクル推進貢献度						5	
		廃棄物の発生抑制、再資源化及び適正処 リサイクル製品、再生骨材等の使用 新工法・新技術の採用 その他(具体的事例)	該当項目 2 以上 該当項目 1 該当項目 0	5 3 0					
		計					20		20

評価種別 継続箇所評価
適用基準名 街路事業

事業コード(H17-建-再-1)
箇所名 (秋田市手形)

1. 評価内訳

観点	評価項目 細別	評価基準	配点	評価点	摘要
熟度	都市計画事業認可に対する事業の進捗状況 事業認可書の予算計画に対する執行状況	計画以上に進捗している	10	6	
		計画に対して80%以上100%未満	8		
		計画に対して60%以上80%未満	6		
		計画に対して50%以上60%未満	4		
		計画に対して50%未満	2		
	地域の協力体制 事業推進のための各種協議会等が設置さ 地域住民の取り組みが積極的である 市町村自ら積極的に用地交渉など事業の 買い取り請求が複数ある 裁決申請(予定を含む)物件がない 計	該当項目3以上	5	3	
		該当項目2	4		
		該当項目1	3		
		該当項目0	0		
		計	15		
合計			100	80	

2. 判定

ランク	判定内容	配点	判定	摘要
	優先度がかなり高い	80点以上		
	優先度が高い	60点以上～80点未満		
	優先度が低い	60点未満		